

棚田

島原半島に農耕地は多いものの、稲作は非常にまれである。山の斜面が急すぎて簡単に水田を作ることができないためだ。実は、この谷の一部が地滑りで埋まった後に美しい谷水水田が作られている。

江戸時代（1603年 - 1867年）には、裕福さはひとりの成人が一年に食べるのに必要な米の量を表わす「石」で測られていた。米を育てておらず入手することが難しければ、経済活動に参加することは非常に困難だ。文字通り自身の税を払うことができない。稲作を成功させるための2つの主な要件は大量の水と平坦な土地だが、島原は大きな川がなく、かつ山の多い半島で満たすことが難しいため、歴史的に貧しい藩であった。

昔この谷は地滑りが起きた場所で、大きな岩が山から大量に落ち、土地が平らになり壁を作る材料になった。半島西側の高い雨量と不浸透性の岩の層が相まって、棚田には完璧な条件となった。

地元の人々はこの独特な地質による恵みを数百年間利用しており、1900年代には辺鄙であったこの地域に日本発の水力発電所が設置された。